

(3) 主な調査成果

柳町思案橋広場整備事業について

1 事業の目的

長崎街道沿いの思案橋周辺において発見された、石垣護岸及び雁木（石段）、建物の礎石などの遺構を保存・活用しながら、往時の風情が感じられる広場として整備することにより、歴史的・文化的資産を活かしたまちづくりを推進する。

2 位置図 【所在地：佐賀市柳町199番（公簿面積：73.38㎡）】



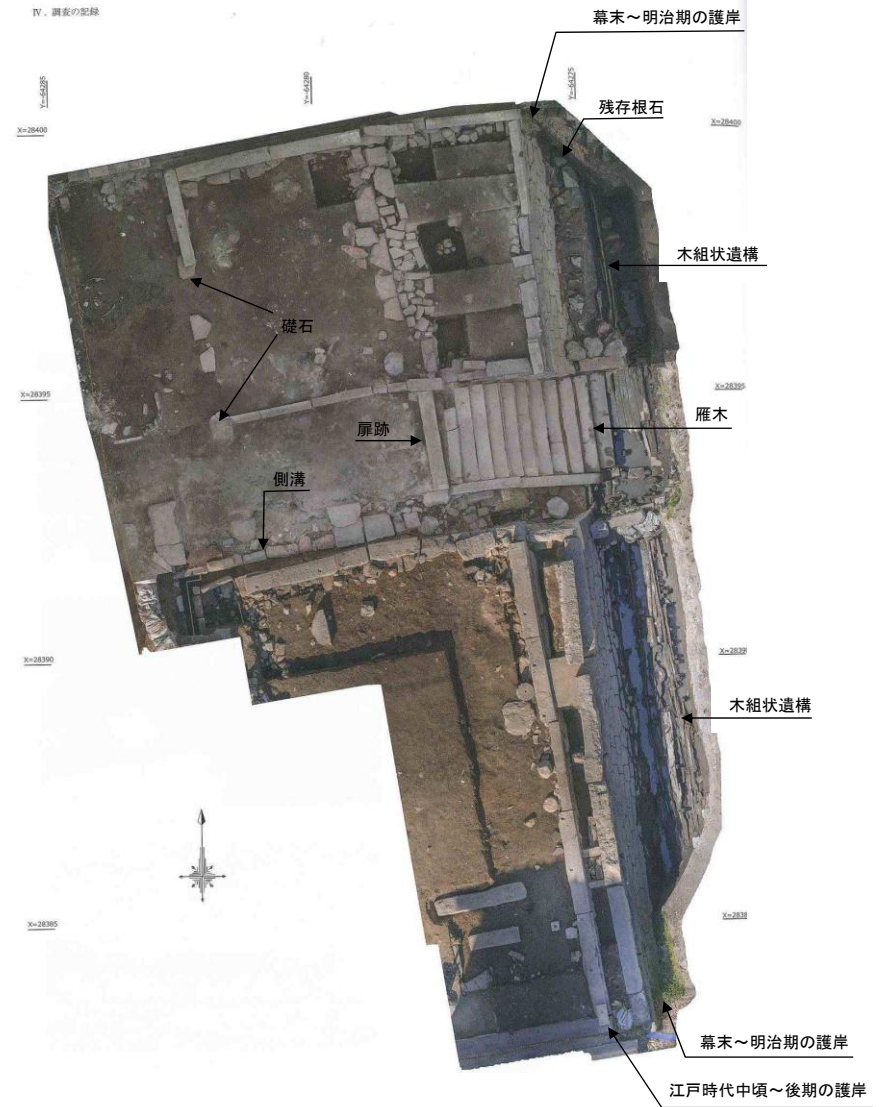
3 遺構の概要

(1) 遺構の状況

- ア 石垣護岸：江戸時代中頃～後期のものとみられる石垣と、その東側（川側）に幕末～明治期のものとみられる石垣が構築されている。高さ約2m。
- イ 雁木：船着き場・荷揚げ場等に造られる石段。長さ1.8m。幅30cm、厚さ10cmほどの竿石が12段。また、雁木の南側に沿って幅80cmの側溝が構築されている。
- ウ 礎石：1.8～2.0m間隔で配置されており、土蔵に伴う可能性がある。
- エ 木組状遺構：幕末～明治期護岸の前面に杭や横板で構築。河川の水当たりから護岸の根石部分を保護する根固めの痕跡の可能性がある。

(2) 遺構の意義

- ア 佐賀城下で江戸時代から続いた荷揚げ場遺構としては初めての発見であり、江戸時代から続いた商家町に紺屋川を介して舟運が行われていた希少な名残。
- イ 長崎街道と川が交差する特徴的な地点で、護岸の変遷がわかることで川幅や土地利用の変化、往時の景色の移り変わりをたどることができる。
- ウ 佐賀城下で石垣護岸と雁木が一体となって状態良く残っている箇所は他には見られない。さらに石段の据え方などの構築技術を知るうえでも貴重。



(画像：佐賀市埋蔵文化財調査報告書第139集/思案橋遺跡/令和4年3月31日)



思案橋から対象地を望む 南東から



幕末～明治期の護岸 南から



石垣護岸 幕末～明治期 江戸中頃～後期 北から



雁木 東から



礎石 南から



北側石垣護岸 南東から



南側石垣護岸 北東から



南側木組状遺構 西から

4 整備スケジュール

項目	年度・月	R2年度					R3年度			
		1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3
用地		使用貸借		●用地取得						
埋蔵文化財調査			石垣護岸等状況調査							
設計	護岸整備			設計委託						
	広場整備				設計委託					
工事	護岸整備					石垣護岸下部根固め工事等				
	電柱移設(補償)				電柱移設(補償)					
	広場整備								広場整備	



【発掘調査前】



【護岸工事前】



【既存コンクリート護岸撤去後】



【護岸工事 完了】



【広場整備 完了】